

新型コロナワクチン接種に伴う反応性リンパ節腫大について 新型コロナワクチン接種後の副反応として、倦怠感や頭痛、発熱というような副反応がおきることはメディアでも毎日のように報道されており、ご存じの方も多いと思います。こうした症状に加えて、新型コロナワクチン接種後、特に2回目の接種後に、接種した側の腋窩リンパ節が腫れることが報告されています。これは抗体を作成するために免疫機能が働いている兆候なので病気ではなく、心配はいりません。ただし、乳がん検診や乳がん術後の外来で、マンモグラフィや超音波などを受ける場合に 判定や診断に影響を及ぼす恐れがありますので、お知らせいたします。

日本では、日本乳癌検診学会から「乳がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応の手引き」<http://www.jabcs.jp/images/covid-guide202106.pdf> が示され、「ワクチン接種前に施行するか、2回目ワクチン接種後少なくとも 6~10 週間の 間隔をおいてから施行すること」が推奨されています。